

美の共有----- デザインの本質を探る



「かたち」ある製品の開発においては、未だに「表層をきれいにお化粧すること」がデザインだという解釈がある。このことはエンジニアリングとの関係にも影響する大きな誤解だ。工業デザインの生い立ちを辿りながら誤解の原因を紐解き、本来あるべき姿を認識することで、製品開発におけるエンジニアとデザイナーのより良い関係を考える。



朝倉 重徳（あさくらしげのり）

インダストリアルデザイナー 株式会社GKインダストリアルデザイン 代表取締役社長
 1963年東京生まれ、早稲田大学理工学部機械工学科卒業後渡米、Art Center College of Designを経てGKデザイングループ入社。産業機器からコンシューマプロダクトまで「美しい考え、美しいかたち、美しい関係を創造するデザイン」として活動している。グッドデザイン大賞、iF賞、reddot賞、IDEA賞等、受賞多数。日本グッドデザイン賞審査委員。

領域統合による新価値創造 ----- 設計におけるプロジェクトのかたち



一般的なものづくりでは、問題解決型のアプローチにより既存製品の機能や性能の向上など優れたデザインを生むことができる。一方、仮説提案型のアプローチでは、未来の暮らし方に“あるべき姿”を描いていく。その理想に向かう感性領域からの発想は、工学的な機能性領域との協働により品質を高め、革新的なデザインとして新価値を生み出すことができる。二つのアプローチ融合について考える。



福田 哲夫（ふくだてつお）

インダストリアルデザイナー 産業技術大学院大学 名誉教授 京都精華大学 客員教授
 1949年東京生まれ。自動車会社デザイナーを経て独立。フリーランスとして主に産業機器の設計開発をサポート。1987年よりトランスポーテーションデザイン機構（TDO）のメンバーとして鉄道車両のデザイン開発に携わる。現在では「指輪から新幹線まで」幅広くデザイン業務に携わる。鉄道車両を中心に受賞多数。日本デザイン振興会グッドデザインフェロー。